しらかわの身近な文化財

第十一話 板碑と信仰

白河市内には、たくさんの石造物がありますが、その中の一つに、板碑があります。板碑は、石製の塔婆です。主に鎌倉時代から室町時代に、関東地方を中心に全国で建立されました。

市内で見られる板碑は、白河石を用いてつくられ、形状は、三角形の頭部の下に、二条の溝を配し、この部分が碑面よりも前に張り出す特徴があります。碑面中央には、梵字（種字）と呼ばれる、仏・菩薩などを一字で記したものを彫るのが一般的ですが、中には梵字の代わりに仏・菩薩を線刻などで表したものも見つかっています。さらに、梵字の下には、建立年・供養者名と考えられる人物名が刻まれているものもあります。

市内最古の板碑は、大信中新城に所在するものです（図1）。碑面中央に梵字（胎蔵界大日如来）を配し、その下部に建長8年（1256）と刻まれており、鎌倉時代に建立されたことが分かります。

▶（図1）建長の板碑（大信中新城字入塩沢）

さて、これらの板碑は、どのような意図で建立されたのでしょうか。それは現在の「卒塔婆」のようなもので、死者の菩提を弔うためや、あるいは、そうした行為により建立者が功徳を積み死後、極楽往生するためと考えられています。

白坂石阿弥陀に所在する板碑（図2）のように、建立後その土地の地名の由来になったと考えられるものもあります。

これらは、現在も地域の人々により大切に守られています。

▶（図2）石阿弥陀の板碑（白坂石阿弥陀）

問文化財課☎㉗2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～

景観まちづくり通信 Vol.11

問都市計画課　内2232

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をインスタグラムで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ

今月号は「生活景」をお知らせします。

白河の景観といえば、小峰城跡や南湖公園、白河関跡などの歴史景観のほか、権太倉山や関山など緑豊かな自然景観などを思い浮かべる方が多いかもしれません。では、皆さんがお住まいの地域の景観といえば、どのような風景を思い浮かべるでしょうか。懐かしさを感じる田んぼのあぜ道、ほっとする落ち着いた街並み、わくわくする路地裏など、それぞれ心に刻まれた風景があるのではないでしょうか。

地域の景観は、これまでの歴史や文化、人々の暮らしぶりにより生み出され、長い年月をかけてはぐくまれてきたもので、このような地域に根差した身近な景観を「生活景」と表現することがあります。

生活景は、あまりにも身近すぎて価値を認識しづらいものですが、地域の魅力や個性を表現するとても重要なものです。

皆さんもぜひ地域を歩いて、お気に入りの景観を見つけてみませんか。